第１回大阪府市都市魅力戦略会議

1　**開催日時**

平成 24 年 2 月 9 日(木)　10:00～11:30

2　**場所**

大阪市役所本庁舎　P1 階（屋上階）会議室

3　**出席者**

橋爪特別顧問、池末特別参与、太下特別参与、嘉名特別参与、橋本特別参与、福田大阪府府民文化部長、野々村大阪市ゆとりとみどり振興局長

4　**議事概要**

〇都市魅力戦略部会設置要綱について（事務局から説明）

（橋爪特別顧問）

ž　府市統合本部から部会という名称ではなく、「会議」という名前に統一したいという連絡があり、都市魅力戦略部会ではなく都市魅力戦略会議という名称にしたいので、要綱もそのように変更してほしい。

（福田部長）

・　本部との関係もあるので、事務的に調整させていただきたい。

〇橋爪特別顧問あいさつ

ž　府市統合本部のもと、大阪を多くの人が集まる都市とするため、創造性のある、他都市にはない世界で唯一のクリエイティブな事業をしている都市としていく。

ž　府市の持っている可能性を最大限に引き出し、全世界が大阪にあこがれるようにしていくべく皆様の知恵とお力をお貸しいただきたい。

〇都市魅力戦略部会について

〇検討スケジュールについて

ž　資料２～４　橋爪座長が説明。担当参与の決定

ž　資料５　太下特別参与から提案

（太下特別参与）

・　専門は文化政策。文化庁、東京都のアーツ・カウンシルにも関わってきた。ちょうど英国のアーツ・カウンシル制度について調査に行ってきたところ。ぜひ、大阪でもアーツ・カウンシルの制度をつくってほしい。ただ、英国のアームストロング・ルール（政府とアーツ・カウンシルが互いに独立の立場を取ること）を、語義のまま日本で実現しようとすると、実現のハードルがとても高くなってしまう。大阪でアーツ・カウンシルをつくる場合、どのような機能が必要かというところから考えるべき。

ž　資料６　橋爪座長から説明

ž　資料７　橋爪座長から説明

（橋爪特別顧問）

- エリアマネジメントに関していくつか考えている中のひとつとして提案したい。難波をワールドクラスのフェスティバルにしていきたいというもの。御堂筋がより市民が楽しめるための先導的な事業として考えられるのではないか。市長にも評価いただいている。

（池末特別参与）

- 公金を投入する以上成果が問われるため評価ができるように目的について整理が必要。ターゲットは誰なのか？例えば観光においてはどの地域、国なのか？1 回目なのか 2 回目なのか？など具体的なイメージを持って見える指標を作っていく必要がある。
- 今回は実験ということなのでとんがったものを作らなければいけない。とんがったものをつくらないといけないということは当然失敗する可能性もあるので、公がどう関わっていくのかという仕組みづくりをうまくやらねければならない。官の資源配分の仕方について、例えば美術館の建物なんかは官がやらなければならないが、基本的にプロデュースなど民ができることについては、支援するという仕組みができれば、とんがった部分を民にやってもらうこともできることにもなると思うのでそういった公の仕組みというものをきちんと考える必要があると思う。
- 現在、東京でとんがったことをやっている人の多くは大阪出身である。もともと大阪にいるそういう人たちが活躍できる場を提供することが大事。

（嘉名特別参与）

- 日本では各セクションを of で表すがロンドンでは for～である。この for～、～のためにの発想が大事。
- どのような取組をするにしてもそれをアピールしなければ意味がない。相当わかりやすくしないとダメ。そういう意味では水と光のまちづくりなんかはどういう新しいやり方をすればいいのかというところで、パイロットケースとして考える余地があると思う。
- 分かりやすさとともに大事なのはスピード。変化が実感できるものをまず出して、その後制度、仕組みなどを変えていく二段ロケットの取組が必要。
- エリアマネジメントに関して言えばまちづくりとの整理が必要。ニューヨークでいうとタイムズスクエアなんかは BID が入っている。住民のまちづくりとは別の視点でプロモーションやエリアマネジメントを起こしていく、にぎわいを創出していく視点が入っている。官がリードするのではなく、民間に任せるところは任せて、それがにぎわいにもつながっていくそういう仕組み。大阪版の BID を都心部のシンボル的な場所で導入する必要がある。それと、公共は屋外広告物の規制緩和や劇場優遇などについてはクオリティコントロールできるようなセーフティネットの仕組みづくりが重要。

（橋爪特別顧問）

- タイムズスクエアは屋外広告物なんかを規制ではなく積極的につくるようにガイドラインをつくったり、劇場を優遇したりしてニューヨークのシンボル的な場所を作った。大阪には世界があこがれるようなシンボルとなるような場所がなかったので作っていかなければならない。そのために BID や民間の力を活用することが重要。

（橋本特別参与）

- アーツ・カウンシルについては大阪らしい公的な機関としていくべき。現代アートを中心に既にアーツ・カウンシルの設置に向けて活動しているところはある。

- 文化財保護は別だが、文化財振興はアーツ・カウンシルの範疇となるところであるが、あまり取扱領域を増やすと評価をする委員もたくさん必要となり好ましくないため、伝統芸術文化や現代芸術文化、あるいは地域芸術文化ぐらいに、領域に依存しない形で大きく分けて考えていくこともあるのかと思う。
- 第三者委員会とアーツ・カウンシルの業務分担が重要である。パイロットプログラムは第三者委員会を骨抜きにしないように注意する必要がある。そのために、重点領域を設定していくことが重要になる。たとえば、文楽・能楽、美術館・博物館の再編、震災の復興支援なんかを重点領域と設定するなど。

（橋爪特別顧問）

- 資料６でいうと重点領域の決定は文化評議会で、プログラムレベルではアーツ・カウンシルの範疇ということになる。重点化については、今後、議論していく必要がある。

（池末特別参与）

- アーツ・カウンシルにおいては分野間の予算配分の問題がある。専門家では異分野間の調整が困難である。これは文化庁のものでもできておらず、枠組だけで形骸化しないように十分に注意する必要がある。

（福田部長）

- 色々とアイデアをいただいてどんどんやっていきたいが、２つ懸念がある。ひとつは、アーツ・カウンシルにおいては、補助金の分配というものがメインとなっているが、今の府市の財政状況を考えると、財源として自由に配分できるようなしくみは、正直厳しいのではないかと考えている。文化振興会議での議論もあり、我々としては、あくまでも民間がメインプレーヤーであり、行政の役割は場の提供、サポートするという基本的な考え方を持っている。アーツ・カウンシルにおいても、ただ単に補助金を配分するだけではなく、行政も含めてどのような文化行政を進めるのか、行政の役割は何か、民間のアイデアをどのように進めていくのかについても考えられるような組織であってほしい。
- とがったものをするにあたっては、現行制度の壁があるものが多い。これからの議論の中でどのような課題があるのかも議論~~示~~しながら、変えないと大阪の文化は進んでいかないということがあれば、我々から国等へ変えていこうという動きにつなげていければと考えている。

（野々村局長）

- 非常に根本的な議論で心強く感じている。
- 嘉名参与が言われるようにスピーディーが重要。来年度の本格予算に向けた検討と長期的な枠組の議論と両方お願いしたい。

（橋爪特別顧問）

- とんがったものをどうやって作っていくのかというのが重要。大阪にある文楽の魅力的な公演がなぜ東京のパルコで行われるのか？大阪にある魅力的なものが産業化する段階において東京に行ってしまう。才能のある人が大阪に集まる仕組みが必要。これまで分けて考えられていた産業政策と文化政策を融合させることを検討したい。